

# 11 地域における環境づくり

県内の各地域では、各地域固有の環境の特性を踏まえ、県民、事業者、行政の協働により健全で質の高い地域環境づくりを進めるための取組が展開されています。ここでは、特徴的な地域の取組について紹介します。

## 大津地域

### ～環境にやさしい循環型の暮らしづくり～

「大津の森の木で家を建てよう！」プロジェクトは、住まい手よし、つくり手よし、環境よしの三方よしの住まいづくりをコンセプトに、森林所有者から住まい手まで関係するすべての業種の人達が集まり、顔の見える関係を大事にしながら、木の伐採から利用まで、一連の流れを通じて地元の山の木を利用することの大切さをみんなで考え、元気な地域づくりを目指し活動しています。

プロジェクトでは大津の山から出される大津産材を、市民などによって構成される「おおつ環境フォーラム」に、第三者として中立の立場で産地証明(木材に刻印を打つ方法)してもらふことになり、協働で取り組む活動が行われています。これまでに大津産の木の家が6棟誕生しました。山の木が家になっていく過程を多くの方に知ってもらうために、「大津の森の木伐採体験・製材所見学・大工さんの刻み見学会」なども実施しています。

またプロジェクトでは、家づくり以外にも木材の様々な活用法を検討しています。大津市内の小中学校で、大津産材を教材に提供し、メンバーが「木材・木工の授業」と「森林環境の授業」を行っています。

**WEB** <http://park23.wakwak.com/~otsu-mori-p/index.html>



刻印作業と産地証明材マーク



## 湖南地域

### ～ふるさとの自然と水をよみがえらせよう～

琵琶湖南湖の他の水域に比べ、透明度が低く、COD、T-N、T-Pの値が高い赤野井湾や木浜内湖において、「マザーレイク21計画」や「赤野井湾流域流出水対策推進計画」に基づき、地域住民との協働による河川等清掃活動、湾内・流入河川における水質・生息生物のモニタリングや「ゆりかご水田」事業、循環かんがい施設整備など環境保全のための取組をしています。

また、「湖南流域環境保全協議会」では、琵琶湖の環境保全につながるように、家棟川、赤野井湾流入河川および葉山川の流域を対象として、「河川見て歩き」、「あやめ浜まつり」、「ヨシ再生」、「里山自然観察」などの環境学習や調査事業(身近な水環境の全国一斉調査)等を地域住民とともにしています。

一方、「湖南地域みずすまし推進協議会」では、水田を

取り巻く環境をフィールドとした生き物観察会や各種環境講座などを開催し、多くの人たちとのネットワークを築きながら、環境に調和した農業の推進と琵琶湖の環境保全を進めています。

さらに、野洲川下流域においては、その田園地帯に点在する自然や歴史、文化など有形・無形の地域資源を展示物と見立てた「屋根のない博物館＝田園空間博物館」づくりに取り組んでいます。平成18(2006)年10月に開館した「野洲川歴史公園田園空間センター」を拠点に、平成19(2007)年4月に発足した住民組織「野洲川でんくうの会」が、野洲川の自然や歴史を学ぶ講座や体験ツアーを行っています。



魚つかみ(河川見て歩き)

## 甲賀地域

### ～人の環で進めよう鹿深の里づくり～

廃棄物の不法投棄や野外焼却などの未然防止・早期発見に努めるため、地域の住民や事業所による地域パトロール隊を結成し、「甲賀地域では不法投棄は出来ない!」を合い言葉に、行政と地域が連携した監視体制を展開しています。この地域連携パトロール隊は、平成14年度の発足時は25団体でしたが、平成20年度は37団体まで拡大しました。そしてこの活動の広がりには、「地域住民自らが集積、積込を行う」、という地域協働原状回復事業の実施に結びつき、甲賀町上野区・油日区にて15㎡の廃棄物撤去に成功しました。

また、朝宮地域では、茶園から流れ出る肥料成分の浄化のために、河川へのヨシの植栽を行い、他にも甲賀市大河原地区では、棚田保全のために棚田ボランティアとの協働による草刈りなど、地域の環境保全に向けた取り組みを行っています。

さらに、管内河川流域の水環境の保全を図るため、県民などと協働で取り組む「鹿深の里甲賀流域環境保全協議会」を設置し、地域住民とともに河川の美化活動などの環境保全活動を展開しています。

## 東近江地域

### ～「エコパーク」をめざした環境づくり～

東近江地域では、住む人と環境とが調和した生活を営むことのできる地域を目指した取組を行っています。

地域の環境保全活動を行っているNPOなどで構成する「東近江環境保全ネットワーク」では、流域アジェンダに基づいた活動として、「永源寺里山物語」や「かいどり大作戦」、「ヨシ刈りボランティア」など山、川、湖をフィールドとした「体験交流事業」を実施し、鈴鹿の山々から琵琶湖

滋賀県の地勢

琵琶湖の  
あらし

滋賀県の環境  
行政の枠組み

豊かで美しい  
自然環境の保全

健全な水環境  
の保全

快適な生活環  
境の保全

クリーンな  
新エネルギー  
の開発・導入

ゼロ・エミッ  
シヨンの取組  
の推進

確実な環境記  
慮の実践

新たな環境活  
動基盤の整備

地域における  
環境づくり

新滋賀県環  
境総合計画  
の点検・評価

滋賀県庁の環  
境負荷低減へ  
の取組

滋賀の環境の  
あゆみ

琵琶湖に至る当地域の豊かな自然と触れあい、その恵みを再認識するなど環境保全意識の醸成を図りました。また、平成20(2008)年10月に西の湖がラムサール条約の登録湿地に追加登録されたことを機に、「西の湖ヨシ造形とヨシ灯り展」やエコポイントを使った社会実験を併せた「西の湖ヨシ刈り(宝さがし)&よし博2009」が開催されました。

一方、地域における資源循環型社会の構築のため、化石燃料に替わる環境に優しい新エネルギー創出の取組として、「東近江菜の花プロジェクト」では、農業者、企業やNPOなどと行政が協働し、菜の花の栽培から廃食油の回収、バイオ・ディーゼル燃料への精製、そして公用車や農耕車・バスなどへの利用という循環の確立を目指した活動が行われ、平成20年度は、24箇所のガソリンスタンドで家庭などから出る廃食油2,746リットルが回収されました。また、「東近江木質バイオマスガス化発電」では、廃棄されている伐採竹や剪定枝などの木質系バイオマスの有効利用を図るための試験研究が行われ、平成18年度から平成20年度の3ヶ年の共同研究で、材料の調達からガス化発電の実用化に向けた調査検討が行われました。



西の湖のヨシ刈り体験

## 湖東地域 ~パートナーシップで築く 自然と共生した湖東地域づくり~

湖東地域では、「マザーレイク21計画」を具体的にすすめるための身近な行動計画「湖東地域エコトピア推進計画」を策定するとともに、水環境の保全回復、ごみの減量化、環境教育の推進などの実践活動に取り組んできました。そして、これらの取組を引き継ぐため環境団体などが主体となって平成16(2004)年3月に『環境フォーラム湖東』が設立されました。

設立以来、環境フォーラム湖東では、身近な生き物であるツバメやセミ、魚など毎年テーマを定め観察をする「生き物調査」を通じて湖東の自然環境を考える取組、講演会や体験コーナーを通じて、環境に対する取組の輪を広げる「湖東地域環境シンポジウム」の開催、環境に関心のある人が、お互いに交流することで新しい活動や情報の交換が生まれることを目的とする座談会「えこサロン」の開催、情報交流誌「エコトピア」の発行など様々な事業を展開し、湖東地域からよりよい環境を作り出すための活動を進めています。

県では環境フォーラム湖東の活動を支援し、湖東地域の総合的な環境保全活動を推進しています。



湖東地域環境シンポジウム

## 湖北地域 ~「水のある風景」と 「田園風景」を守る環境づくり~

湖北地域では、稲の苗作りの時期以外は空いているパイプハウスや冬季の労働力、転作田や農機具など未利用

資源の有効活用を図りながら、環境に配慮した「こだわり農産物認証制度」の基準で、野菜や花、果物など新たな園芸作物の栽培に取り組んでいます。

収穫された農産物は、消費者のニーズに応え生産者の顔が見える新鮮で安心、安全なものとして、直売所を中心に地域内で消費する「地産地消」を進める一方で、湖北を代表する特産物としてブランド化を目指しています。

具体的には、有望品目や環境に優しい栽培方法や新技術を紹介する研修会「新花野菜セミナー」の開催を契機に、新しい品目を栽培する農家に対し継続的に指導を行っています。その結果、これまでに湖北地域で62名の農家が新しく栽培に取り組み、メロンやトマト、イチゴ、ブルーベリー、イチジク、柿(太秋)などの新しい特産物が芽生えてきました。また、これら新しい特産農産物に加え、これまでから育ててきた伝統野菜や果物、小菊等14品目を湖北ブランド「花野果たわわ」の推進品目として選定し、名実ともに湖北を代表するブランド農産物へ育成すべく、栽培技術はもとより販売面でのPRや情報発信にも取り組んでいます。



湖北ブランド「花野果たわわ」ロゴマーク

## 湖西地域

### ~見直そう自然の恵み~湖西からの発信~

湖西地域の自然や歴史、風土、生活などを、体験交流の場・環境学習の場として位置付けながら、バランスの取れた地域環境の保全を図り、地域の活性化に向けた新しい仕組みを地域ぐるみで考える「湖西・森と里と湖のミュージアム」構想を平成14(2002)年10月に策定しました。

この構想を効果的に進めていくためには、「情報発信拠点機能」、「交流拠点機能」、「総合事務局機能」を担うコアの創設が重要であることから、平成20年度は、びわ湖高島観光協会と連携し、ミュージアム情報の発信拠点等総合事務局の創設に向けた場づくりを行うとともに、情報の収集、整理、発信などの事業を行いました。

また、環境と調和した農業を進めるとともに、水質および生態系の保全を図るため、「高島地域みずすまし推進協議会」では、自然観察会の開催などをおして、豊かな農村環境を保全する取組を進めています。

他にも、「マザーレイク21計画」に基づき設立された各流域協議会における水環境保全活動や、新竹取物語事業(川づくり事業)の取組など、環境保全活動を展開しています。

高島地域みずすまし推進協議会  
マキノ知内自然観察会